

69 期生

3年生学年だより

豊中市立第五中学校 2022年4月19日(火) No.3

「**作文**」テーマ～三年生になって～

オリエンテーション期間に三年生になって、今の気持ちや決意を作文にして書きました。一部を紹介しますので、読んでみてください。

「この六十九期生のいいところ」

僕が思うこの六十九期生のいいところは、みんなに優しく、仲間たちと協力し、助け合いができる学年だということです。あと、みんながみんなおもしろくないことも真剣に取り組むことができ、何事にも楽しく一生懸命に取り組むことができる学年だと思っています。この六十九期生は最高だと思っています。

「最後のクラス」

中学校最後のクラスがこのクラスのみんなでよかったと感じました。授業も楽しくできて、これからの色々な苦しいことや辛いことなども一緒に乗り越えられる気がします。体育大会や修学旅行やありがとうを歌う会など色々な行事がまっているから、みんな協力して、笑って、仲をもっと深めていきたいなと思いました。

「新しい仲間を楽しませてまきこむ」

なぜ、ぼくがこの題名にしたかというと、その題名にした理由は三つあります。まず、一つ目は、自分は結構明るめなんですけど、自分とは違う人だっているし、そんな人たちを巻き込んで、「〇〇と一緒にのクラスになれてよかった」って思ってもらいたいです。二つ目は、シンプルにみんなの笑顔や、楽しんでる姿が好きだからです。多分それが自分のモチベーションになったり、元気の源だと思っています。でも、そこで調子に乗ってやりすぎるから、そこはしっかり三年生で直します。三つ目は、今学校に来れていない子に学校の楽しさや、仲間と過ごせる大切さを知ってもらって、「〇〇がいるから」学校に行こうかなって言うてもらえるぐらいじゃないので、自分ももっと成長していけたらなって、改めて感じました。



「八年目の正直」

私は、二年の時に本当にできなくて悔しかったことがあります。それは計画的に勉強できなかったことです。中学生になってからは宿題がたくさん増え、きちんと計画的にできない私は、提出間近でなんとか終わらすということが続きました。一気に集中してやるので、効率は良いのですが、ストレスもたまるし、そもそもこんなやり方だと間違いなく高校でつまずきます。だからこそ、この中学校最後の一年でコツコツ勉強をできるようにして、さぼってばかりの自分を変えたいです。と、思い続けて早七年ほどなのですが…。昔は今のようなやり方でも、その場しのぎでなんとか耐えました。ですが、中学三年生は逃げたくても逃げられない受験が待っています。進路をたくさん悩んで、親とまた喧嘩をして、これまで以上に苦しくなるでしょう。けれど、だからこそ、私はこれから大きなチャンスになると思っています。ギリギリにならないと動くことができない私がこんな状況になれば、何か変わるかもしれません。もちろん、「かもしれない」で未来に任せるのではなく、もう一度心を入れ替えて頑張ります。来年私が受験する時には、自信を持って堂々と受けられるようになりたいです。そして、卒業する時には、自分が本当に成長したと思える一年になるよう、精一杯努力します。

「三年三組」

三年三組二番。西ピロティ前に貼り出された新クラスが書いてある紙、そこに私の名前がありました。ドキドキ半分不安半分、仲の良かった子と離れて悲しい気持ちと新しい生活がスタートする嬉しい気持ちでごちゃごちゃしたまま、新学期一日目は終わってしまいました。でも、このクラス、メンバー、担任の先生になったのも、きっと意味があるとおもいます。「置かれた場所で咲きなさい」という言葉があるのを知っていますか？この言葉のように、私は三年三組で、一生懸命咲く花になります。

「二年生の反省とこれからの目標」

私は二年生の一年間がすごく充実していたと感じています。また、一年間で自分は成長できた、とも感じています。ですが、一つ反省したいことがあります。それは、本気で取り組んだものがなかったことです。一年生の時も二年生の時も、やるべきことにぜんりょく全力をつくしてはいたけれど、自分で「これをやりたい」と決意して頑張ったことは一つもありませんでした。最低限のことはするだけでは駄目だ。と思ったこともたくさんありましたが、何にも興味がありませんでした。なので、今年は、受験対策をしながら、色々なものを見て、やりたいことを探す年にしたいと考えています。やりたいことが見つかったら、すぐには無理でも高校生になったら、全力を注いで頑張りたいと思っています。それが私のこれからの目標です。

